

G20 岡山保健大臣会合開催記念シンポジウム



蒜山三座の眺望

持続可能な開発目標 (SDGs) にむけて



山路を登りながら
備中高梁駅前 山田方谷像
本社協役員室 渋沢栄一像
日本医師会館 北里柴三郎像
和気神社 和気清麻呂像

高梁市 薬師院・松連寺
ヤンマー株式会社 バイオインノベーションセンター倉敷ラボ
瀬戸内市 太陽光発電
京都大学 こころの未来研究センター



開会式 (9:45 ~ 10:00) 閉会式 (16:00 ~ 16:15)
 第1部 (10:00 ~ 12:30) 座長 野島 透氏 榎野博史氏
 第2部 (13:30 ~ 16:00) 座長 広井 良典氏 増田雅暢氏
 日時: 2019年度8月24日 土曜日

場所: 山陽新聞社さん太ホール 岡山市北区柳町2丁目1番1号

参加費 無料 (抄録集ご希望の方は500円の資料代を頂きます)

- 主催: 賢人を語りつなぐ会 実行委員会 ●共催: TSC テレビせとうち
- 後援: 岡山市 G20 岡山保健大臣会合支援推進協議会、岡山大学、瀬戸内市、高梁市、真庭市、山陽新聞社、自治研究センターおかやま
- 顧問: 橋本 徹 元日本政策投資銀行 代表取締役社長 前東京岡山県人会 会長 「方谷さんを広める会・東京本部」会長
- 顧問: 松田 久 岡山商工会議所 会頭
- 顧問: 古川 國久 シップヘルスケアホ ルディングス株式会社 代表取締役会長 CEO 「方谷さんを広める近畿の会」副代表

持続可能な開発目標 (SDGs) にむけて — 開催要旨 —
G20 岡山保健大臣会合シンポジウム

1. 貧困の根絶
2. 飢えの根絶
3. 健康な生活
4. 質の高い教育
5. 男女平等
6. 清潔な水の確保および公衆衛生
7. 再生可能エネルギー
8. よい仕事と経済発展
9. イノベーションとインフラストラクチャー



10. 不平等の緩和
11. 持続可能な都市およびコミュニティ
12. 責任ある消費
13. 気候変動に対する行動
14. 海中生物
15. 陸上生物
16. 平和と正義
17. これらの目標を達成するためのパートナーシップ

THE GLOBAL GOALS

2000年までに世界中の「すべての人に健康を」目標に国連のWHO・UNICEFが1978年国際会議の中で「プライマリ・ヘルス・ケア」が決議されその目標実現におき現場で実践行動がとられました。しかし、世界のグローバル経済の発展の中で、健康問題は地域の経済問題・食料問題・地球環境問題・災害・貧富の拡大など多くの課題と関連するようになり単独分野での取り組みだけでは解決できない状況になってきました。そこで、2015年国連において各分野の目標への取り組みのみでなく、環境・経済・社会・教育・健康などの課題を包括的に取り扱い課題相互の関係を重視し、17のゴールを設定し、2030年を一つの道のりとして「持続可能な開発目標=Sustainable Development Goals:SDGs」を設定し、複数の課題を同時に解決するため、その「関係性の確立」と各分野での「主体的な取り組み」が求められています。

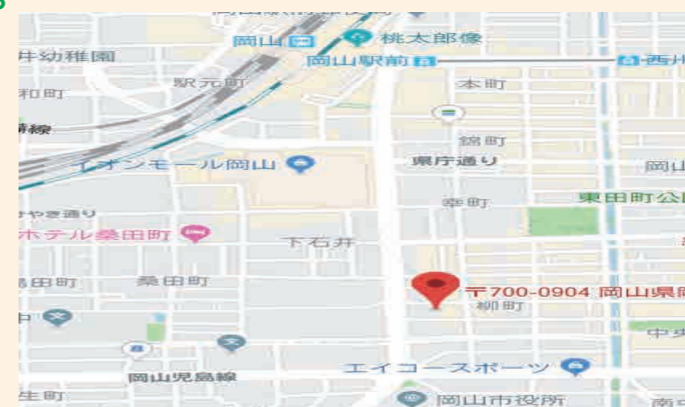
今回2019年10月19,20日と岡山市において、G20岡山保健大臣会合が開催されるのを機に、岡山県においても各分野での先駆的な取り組みの現況を今回のシンポジウムで発表していただきます。第1部では、地域自治体の森林・太陽エネルギー等の取り組みや食料生産・地域経済・地域文化・地域づくりなど、歴史・文化・人材育成も含め、語っていただきたいと思ひます。第2部においては、「いのちとくらし」を支援する健康・医療・介護・福祉・人材育成についての取り組みを発表し、シンポジウムの中で皆様とともに語り合いたいと思ひます。実り多い会になりますよう祈念いたします。

賢人を語りつなぐ会 代表 青木 佳之

会場案内

山陽新聞社さん太ホール
Access

岡山市北区柳町2丁目1番1号
TEL: 086-803-8222



- JR岡山駅下車、徒歩15分(市役所筋を南に下る)
- 路線バス「山陽新聞社前」下車

事前申込

別紙のお申込み用紙に必要事項をご記入のうえ、『賢人を語りつなぐ会実行委員会』事務局までFAXまたはEメールにて事前にお申込みください。

賢人を語りつなぐ会 実行委員会

事務局 住所: 岡山県岡山市南区大福281-5 (青木内科小児科医院内) 電話: 086-281-2267

FAX: 086-281-2275 Eメール: info@aoki-primary.jp

第1部 共同座長 野島 透氏 榎野 博史氏

山田方谷六代目直系子孫 国立大学法人岡山大学長

10:00 基調講演

● 地域復興と社会福祉のセーフティネットの土台を築いた山田方谷
地方公共団体金融機構理事 山田方谷六代目直系子孫 野島 透氏

シンポジウム

● 食料生産における「A SUSTAINABLE FUTURE」
ヤンマー株式会社 中央研究所 バイオイノベーションセンター アグリテックグループ グループリーダー 小西 充洋氏

● 木質資源を活用した地域活性化
真庭市長 太田 昇氏

● 瀬戸内市 太陽のプロジェクト
瀬戸内市長 武久 顕也氏

12:30



野島 透
山田方谷六代目直系子孫 地方公共団体金融機構理事
昭和36年(1961年)生まれ。山田方谷研究者。東大卒業後、大蔵省(現財務省)入省。大阪国税局課税第一部長・査察部長、財務省大臣官房文書課室長、内閣府参事官、財務省大臣官房会計課長、九州財務局長、都市再生機構(UK)理事等を歴任。現在は地方公共団体金融機構理事。祖父が野島家の養子になったため野島姓であるが、山田方谷の六代目の直系子孫である。山田清斎(二松学舎専門学校初代校長)は曾祖父にあたる。



榎野 博史
国立大学法人岡山大学長
昭和42年6月 アメリカ合衆国Emmaus High School卒業
昭和50年 岡山大学医学部卒業、岡山大学医学部第三内科教室入局
昭和59年7月 米国Northwestern大学医学部(病理)客員助教授
平成8年4月 岡山大学医学部第三内科教室教授
平成21年4月 (現 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科人・免疫・内分代謝内科学)岡山大学大学院医歯薬学総合研究科長
平成23年3月 岡山大学理事 岡山大学病院長
平成23年4月 岡山大学長
平成29年4月 第1回ジャパンSDGsアワード特別賞「SDGsパートナーシップ賞」(国立大学法人岡山大学)
<学会活動>
日本腎臓学会 監事、前理事長(平成20~23年度)
日本糖尿病学会 評議員、日本高血圧学会 評議員



小西 充洋
ヤンマー株式会社 中央研究所 バイオイノベーションセンター アグリテックグループ グループリーダー
東京大学大学院農学生命科学研究科 生物・環境工学専攻で博士号取得(農学; '08/3)。同年ヤンマー株式会社、水産増殖の研究所(マリンファーム; 大分県)へ配属。微細藻の生産管理や二枚貝養殖の研究開発を行った。その後、施設園芸、土づくり等の技術・サービス開発に従事。生物関連情報の集約と新規事業開発の加速を目的に「バイオイノベーションセンター(BIC)」を新設('15/1)、研究開発拠点「BIC倉敷ラボ」を建設('16/8)。それらの設立・建設当初より、所長として運営と研究開発に携わり、現職はBICアグリテックグループリーダー('19/7~)。専門は光合成の非破壊計測。



太田 昇
真庭市長
1951年真庭市生まれ。京都大学法学部卒業。1975年に京都府へ入庁し、財政課長、知事室長、総務部長等を経て、2010年から副知事を務めた後、2013年4月に真庭市長へ就任し、現在2期目。真庭市の持続的発展のためには、地域資源を見出し、活用し、連携していくことが一つの方策であるという考えのもと、豊かな木質資源を活用したバイオマス発電やCLT(直交集成材)の普及など、里山真庭の多彩な地域資源を生かした戦略的取組に挑戦している。なお、この考えと軌を一にする「SDGs未来都市」に選定され、少子高齢化の中でも永続的に反映する真庭市づくりを目指している。



協賛作品 あだち 幸 「不動明王―I」
殺すなかれ 産ましむなかれ 天の火をあやつるなかれ



武久 顕也
瀬戸内市長
<学 歴>
2003年12月 英国バーミンガム大学 公共政策大学院修士課程 終了
<経 歴>
1992年3月 筑波大学農林学類卒業
1996年4月 岡山県邑久町議会議員
2001年9月 バーミンガム大学公共政策スクール地方研究所留学
2003年10月 監査法人トーマツ大阪事務所 パブリックセクターシニアマネージャー
2006年4月 京都大学大学院経済学研究科博士後期課程 ~15年3月 関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科准教授
2007年4月 関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科
2009年7月 瀬戸内市長 就任
2016年4月 関西学院大学専門職大学院客員教授

第2部 共同座長 広井 良典氏 増田 雅暢氏

京都大学こころの未来研究センター教授 東京通信大学 教授

13:30 基調講演

● 持続可能な医療とコミュニティ
京都大学こころの未来研究センター教授 広井 良典氏

シンポジウム

● 保険医療介護福祉分野でのサービスやそれに関係する人づくり地域づくり
厚生労働省 医政局 総務課 課長補佐 野村 晋氏

● 地域包括ケアシステムにおけるかかりつけ医の地域づくりへの参画
日本医師会常任理事 江澤 和彦氏

● 地域づくりと社会福祉
全国社会福祉協議会 元常務理事 渋谷 篤男氏

16:00

● 地域包括ケア体制の強化と地域共生社会に向けての推進
(社福)全国社協：全国地域包括在宅介護支援センター協議会 会長 青木 佳之氏



広井 良典
京都大学こころの未来研究センター教授
1961年岡山市生まれ。東京大学教養学部卒業(科学史・科学哲学専攻)、同大学院修士課程修了後、厚生労働省、千葉大学法政経学部教授を経て2016年より現職。この間、2001-02年マサチューセッツ工科大学(MIT)客員研究員。専攻は公共政策及び科学哲学。『日本の社会保障』(岩波新書、1999年)でエコノミスト賞、『コミュニティを問う』(ちくま新書、2009年)で大仏次郎論壇賞受賞。この間、教育再生懇談会委員、国際協力機構(JICA)社会保障分野課題別支援委員会委員、内閣府・幸福度に関する研究会委員、国土交通省・国土審議会専門委員等多くの公職を務める。



増田 雅暢
東京通信大学 教授
1976年東京大学教養学部卒業。1981年、厚生省(現・厚生労働省)に入省、企画法令関係の業務を担当。介護保険制度の創設検討、『厚生白書』作成等の業務に従事。1991年から3年間、岡山市役所の民生部長として、岡山市の高齢者・障害者・児童福祉等の行政に従事。内閣府参事官時代に、少子化対策に従事。九州大学法政学部助教授、上智大学総合人間科学部教授、岡山県立大学保健福祉学部教授を経て、現在、東京通信大学人間福祉学部学部長・教授。博士(保健福祉学)。専門は、社会保障政策、介護保険制度、少子化対策。



野村 晋
厚生労働省 医政局 総務課 課長補佐
昭和55年大阪府生まれ。平成11年愛光高等学校卒業、平成15年大阪大学経済学部卒業。平成15年4月に厚生労働省入省。その後老健局で介護報酬改定を担当するとともに、地域包括ケアシステム構築の議論に携わる。平成22年度に柏市に出向し、東京大学高齢社会総合研究機構で辻哲夫教授や秋山弘子教授とともに、「長寿社会のまちづくり」を中心となって牽引。平成24年度に厚生労働省に戻り、平成27年度には政策統括官付社会保障担当参事官室において「保健医療2035」や地域共生社会の策定に携わる。平成29年度に、2度目の地方出向で岡山市に出向。平成31年4月から厚生労働省医政局研究開発振興課に戻り、データヘルスや再生医療といった最先端医療技術の進展に携わり、同年7月から医政局総務課課長補佐。



江澤 和彦
日本医師会常任理事
<現 職>
医療法人 博愛会・医療法人 和善会・社会福祉法人 博和会 理事長
<資 格>
労働衛生コンサルタント(保健衛生)、日本リウマチ学会リウマチ指導医・専門医
<賞 励>
厚生労働大臣表彰(2012年)
<現役職>
・日本医師会 常任理事
・日本慢性期医療協会 常任理事
・日本介護医療院協会 副会長
・慢性期リハビリテーション協会 副会長
・日本医療法人協会 理事
・日本リハビリテーション病院・施設協会 理事
・全国老人保健施設協会 常務理事
・全国デイケア協会 理事
・厚生労働省「社会保障審議会(介護給付費分科会/介護保険部会)」臨時委員
・厚生労働省「社会保障審議会(障害者部会)」臨時委員 他

「社会貢献」を信条とし、社会保障制度・地域包括ケア・地域医療構想・医療保険・介護保険・診療介護報酬等に関する数多くの講演や執筆を行い、ライフワークである「専攻の保障」に積極的に取り組んでいる。



青木 佳之
全国地域包括在宅介護支援センター協議会 会長
<経 歴>
昭和47年 岡山大学 卒業 第三内科入局
昭和57年 岡山大学衛生学(文部教官助手)
昭和60年 岡山市南区大福に開業
<現 職>
医療法人 青木内科小児科医院 理事長
全国地域包括・在宅介護支援センター協議会 会長
全国病児保育協議会 監事
岡山県通所リハビリテーション協議会 会長
<施 設>
昭和60年 無床診療所開設
昭和63年 有床診療所(19床)増設
平成5年 老人保健施設(99床)開設
平成10年 歯科開設
平成13年 岡山地域リハビリテーションセンター開設
平成20年 瀬戸内市牛窓にクリニック・住宅型有料老人ホーム開設



渋谷 篤男
全国社会福祉協議会 元常務理事
1954年、名古屋生まれ。1977年、東京大学教育学部卒業。1977年より全国社会福祉協議会。地域福祉部長、政策企画部長、事務局長、常務理事などを経て、2018年3月退任。現在、中央共同募金会常務理事、日本社会事業大学専門職大学院客員教授、日本福祉大学客員教授。人間関係・社会関係が薄くなっていることが原因で深刻な問題を持つに至っている人が多く、あらためて地域社会の力が求められている。「あらゆるサービスを『地域福祉志向』に」が私の仕事のいちばん大切なテーマ。